

令和4年度 館山市立那古小学校研究計画

1 研究主題

最適解を求める意欲と技能、そして、道徳的実践力の向上をめざして
— 「自分の考えや思いをもち、表現できる子を育成する」教育活動を通して —

2 主題設定の理由

(1) 社会の状況から

国際化や価値観の多様化等により、様々な課題に対して完全ではなくとも、適切と言えるような「最適解」が求められるようになった。この「最適解」を導き出すためには、一人一人が自分の知識や経験等から自分なりの考えをもち、その考えをもとに議論することが必要である。議論を尽くしたからこそ、議論を尽くした人たちにとって、最適な結論となるのである。つまり、社会の中で生きていく上で、様々な課題に対する「最適解」を求め続ける以上、自分なりに考え、他者と議論していく必要があり、そのためのスキルは、これからの社会を生き抜くために必要不可欠と言える。

そして、「最適解」であるからこそ、解に対する実践へ意欲を高め、実践が意義あるものとなっていくのである。

そこで、「自分の考えや思いをもち、表現できる子を育成する」教育活動である『『考え、議論する』道徳科の授業実践』により、学級集団等の様々な課題に対する「最適解」を求める意欲と技能を高め、道徳的実践力の向上をめざすこととした。

(2) 本校児童の実態から

自分の考えをまとめるための思考力、それを表現するための表現力、これら能力の向上が本校の児童の課題である。これまでの実践研究により、日常実践の中で児童の思考力・表現力の向上を感じられるようになってきたが、引き続き、日常実践を積み重ね、更なる向上をめざしたい。この思考力・表現力が、道徳科の実践における「考え、議論する」ことを支える力となって「最適解」を求め、やがて道徳的実践力の向上につながることを期待することとした。

(3) これまでの研究の経緯から

令和2年度から研究対象としてきた国語科における思考力・表現力は、国語科のみで活用されるのではなく、児童の生活全体をはじめ、全ての教科等でも活用されると本校では考えている。思考力・表現力は教科等に固有のものではなく、児童の内面で汎用化されるという考えである。これは、これまでに児童が向上させてきた思考力・表現力が、道徳科における「考え、議論する」という手段にも活かされるという考え方である。

そこで、道徳科における「考え、議論する」活動を通して、学級集団等における様々

な課題に対する「最適解」を求める意欲と技能を高め、道徳的実践力の向上をめざしたいと考えた。

つまり、児童の変容を求める道徳科における教育研究と言えども、道徳科のみにおける実践研究だけではなく、全教育課程における実践が必要不可欠と捉えるのである。

3 研究目標

道徳科において「考え、議論する」手立てを取り入れた授業実践を通して、児童が最適解を求めることができるようにするとともに、児童の道徳的実践力の向上を図る。

4 研究内容

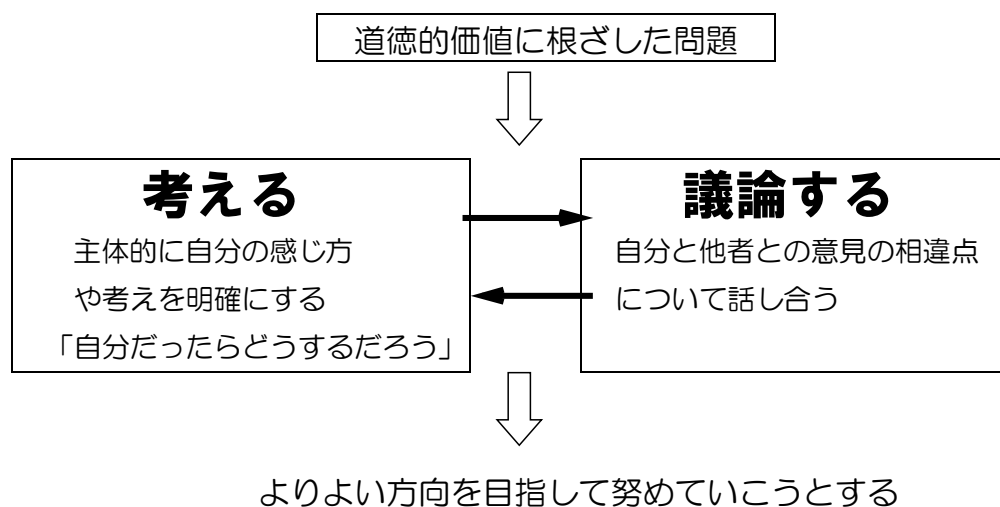
(1) 「考え、議論する道徳科」について

今回の指導要領改正は、「多様な価値観の、対立がある場合を含めて、誠実にその価値に向き合い、道徳としての問題を考え続けることこそ道徳教育の基本的資質である」との答申をふまえ、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」への転換を図るものである。

本校では、一人一人の児童が道徳的価値に根ざした問題について「自分だったらどうするだろう」「なんで～だろう」と主体的に考え、自分の考え方や感じ方を明確にすることを「考える」と捉える。

また、「議論する」とは、異なる意見を持つ他者と、多様な考え方や感じ方と出会い、交流し、自分と他者との意見の相違点について話し合うことととらえる。

つまり、「考え、議論する道徳科」とは、一人一人の児童が、問題に対して、「自分だったら」どうするのか、どう感じるのかを主体的に「考え」、異なる考えをもつ他者と「議論する」ことで、多様な感じ方や考え方に会い、自分との関わりから道徳的価値について考えを深めることによって、よりよい方向を目指して努めていこうと考え続けることであると考えられる。



「考え、議論する道徳科」を研究するにあたり、「考える」ためには、児童が「考えざるを得ない」問題提起や問い返しなどの授業の工夫が必要となる。また、「議論する」ためには、児童の意欲や技能（伝える力、話し合いの力）が必要となってくる。これらを研究し、授業を実践していく。

(2) 研究の検証方法

- ①児童の道徳に対する考え方の変化を、授業実践前と後で意識調査を行い、検証する。
- ②毎時間、道徳ノートに児童の考えの変化を記録させ、その考えの変化や感想から、児童の変容を検証する。

(3) 指導の工夫

○問題提起の工夫

- ①二項対立型
- ②モラルジレンマの状況に導く 等、児童に考えさせる場を設定する。

○問い返しの工夫

話し合いを、児童だけに任せず、教師が必要に応じて参加する。

「それって、どういうこと？」

「本当にそうなのかな？」 等

○児童の意欲を引き出す工夫

簡単に答えが出ない問題を投げかける。

「自分だったら」と考えやすい教材や学級の実態あった教材を選択し、取り入れる。

○話し合いの技能をつける

昨年度、国語科の研究で成果があった。

- ・全員発表
 - ・話し合いの形態の工夫
 - ・「問い返し」や「切り返し」などの言葉の指導
- などを、今年度も国語、道徳だけでなく、他教科でも授業に取り入れていく。

6 研究組織

校長 — 教頭 — 研究推進委員会

- ・研究主任
- ・研究推進委員
- ・道徳教育推進教師（道徳主任）

- 低学年部会（1年・2年・けやき1・少人数指導・ことば担当・ユーカーリ）
- 中学年部会（3-1・3-2・4年・けやき2・校長）
- 高学年部会（5年・6年・けやき3・教務・教頭）

7 研修計画

4	1 9	今年度の研究の方向性についての検討 授業者決定（要請訪問・第1回公開研究会・第2回公開研究会）
	2 8	第1回公開研究会内容決定
5	1 2	指導案送付（要請訪問）
	1 9	要請訪問
	2 6	要請訪問 } （低・中・高）
6	2	第1回公開研究会指導案検討①
	9	第1回公開研究会指導案検討②
	1 6	指導案送付（第1回公開研究会）
	2 3	
	3 0	第1回公開研究会
7	7	
	1 4	
夏季休業		研究構想の検討・第3回公開研究会に向けた教材研究・内容決定
9	8	第2回公開研究会授業者決定
	1 5	
	2 2	第2回公開研究会内容決定
	2 9	
10	6	
	1 3	第2回公開研究会指導案検討①
	2 0	
	2 7	第2回公開研究会指導案検討②
11	1 0	第3回公開研究会に向けた指導案作成
	1 7	指導案送付（第2回公開研究会）
	2 4	第3回公開研究会指導案検討①
12	1	
	7	第2回公開研究会
	8	

	1 5	第3回公開研究会指導案検討②・要請訪問（指導案検討）
	2 2	
1	1 2	
	1 9	指導案送付（第3回公開研究会）
	2 6	
2	2	
	8	第3回公開研究会
	9	研究紀要作成
	1 6	↓
3	2	研究紀要完成
	9	